**事例A【母性看護学実習\_産後の母子ケア】**

|  |
| --- |
| 受け持ち褥婦　　田中さん（仮名）38歳の初産婦、会社員。不妊治療後に妊娠した。妊娠経過は、後期に軽度の貧血がみられたが、その他は問題なく経過した。本人のバースプランには、「なるべく自然に産みたい。母子ともに分娩を無事に乗り越えられるようにサポートしてほしい。できれば母乳で育てたい」等の記載があった。38週2日に破水し、入院した。その後、自然陣痛が発来した。疲労が強く続発性微弱陣痛にて促進するが、子宮口全開後分娩停止にて吸引分娩となった。分娩所要時間は27時間22分であった。会陰切開をしたため会陰縫合術が実施された。総出血量570ｇ。出生児は3,000gの女児でアプガールスコアは8／9であった。分娩直後に、早期母子接触を実施したが、疲労が強く本人の希望もあり20分程度で中止した。 |

　産褥2日目：学生の行動目標

・VS測定や全身観察を通して、児が子宮外生活に適応しているかを考察することができる。

・褥婦が産褥日数に応じた経過をたどっているかを考察することができる。

　課題

■看護学生Aさんの、以下についての指導案（日案）を検討してください。

■不足の情報はグループごとに適宜設定してください。

■実習目標である、「対象者の価値観を尊重し、安全で納得のいく出産体験の保障や、対象者が新しい生命を家族の一員として迎え慈しみ育てられるような関わり」についての指導を検討してください。

【看護学生Aさん】

（特徴）

・内向的で患者とのコミュニケーションは苦手である。

・3年生となって2クール目の実習だが、母性看護や産後の母子への関わりについてのイメージがあまりできず看護計画がうまく立てられない。

　（受け持ち母子および学生の状況）

産褥1日目（学生受け持ち1日目）

・分娩室から戻ってすぐに母児同室が開始となった。田中さんは分娩に伴う疲労が強く、ベッド上で過

ごしていることが多かった。

・学生は、指導者と共に田中さんの全身観察を実施しに行った。分娩を経て疲労が残るなか、授乳や育

児をする田中さんの大変さを目の当たりにして、どの程度関わってよいか分からず（母親の休息を

考えずに長時間訪室したり、逆に休息を思うあまりタイミングよく訪室できなかったり）困難に思っている。

産褥2日目（学生受け持ち2日目）

・田中さんの進行性変化、退行性変化は順調に経過していた。夜間は、児が泣いてほとんど眠れていな

い状況であった。育児行動は不慣れであった。

**事例B【母性看護学実習\_NICU・GCU】**

|  |
| --- |
| 葵ちゃん（仮名）とその母32歳の初産婦、会社員。自然妊娠である。妊娠初期に、軽度の悪阻がみられたが、その他は問題なく経過した。30週に切迫早産で入院し、翌日1,500ｇ　女児を出産した。出産から約1ヶ月が経過しており、児の発達は順調である。母は児の発達に関する不安、母乳が出ない不安、仕事への復帰の不安などを抱えた1ヶ月であったが、最近は笑顔が見られるようになってきている。母親によると、父親は仕事が忙しく帰宅は23時頃のため平日の育児はできないが、仕事が休みの日には母親と共に面会に訪れたりしているとのことであった。児が退院した後1ヶ月程度は、自宅から電車で1時間程度の場所にある実家で過ごす予定である。 |

実習4日目：修正35週　0日：学生の行動目標

・NICU&GCUに入院している新生児と一般病棟に入院している新生児の環境の違いについて考察する。

・ハイリスク児の成長、発達過程を理解することができる。

・看護者が家族とハイリスク児へ行っているケアや関わりを通して、その根拠や意味について考察する。

　課題

■看護学生Bさんの以下についての指導を検討してください。

■不足の情報はグループごとに適宜設定してください。

■「現代医療が抱える生命倫理的な側面の課題」や、「看護者としてのケアのありかたを追求する必要性」、「周産期看護における継続看護の必要性」などが感じられるような指導を検討してください。

【看護学生Bさん】

（特徴）

・学生の設定4年生の総合実習として児を受け持ち、2週間の実習を行っている4年生。

・意欲的だが、やや自己判断で行動してしまう傾向がある。昨日のカンファレンスで葵ちゃんの退院はあと1週間ほどという方針が示されたあとに、スタッフに確認せず、面会に来た母親に伝えてしまうということがあり、教員と指導者で、リフレクションを行い、「自分もとてもうれしかったからつい伝えてしまったが、退院というのは母子にとってとても重要なことなので、簡単に伝えてはいけないこと。明日からは指導者や教員に一つずつ確認しながら実習をしたい」と深く反省をしている様子だった。

（本日の予定）

　　　・児の観察と、沐浴（清潔ケア）に参加し、母親が面会に来て直接授乳の練習と、ビン哺乳の練習をするケアに同席する予定になっている

**事例C【助産学実習\_分娩期】**

|  |
| --- |
| 受け持ち産婦　恵比寿さん　26歳の初産婦、会社員。自然妊娠である。妊娠初期に軽度の悪阻がみられ、妊娠後期に軽度の貧血がみられたが内服処方され、その他は問題なく経過した。本人のバースプランには、「なるべく赤ちゃんに負担をかけないように自然に産みたい。夫と一緒に誕生を迎えたい。初めての出産なのでわからないことも多いのですが、無事に乗り越えられるようよろしくお願いします」という記載があった。　40週4日の13：00に陣痛発来し入院となった。入院時は陣痛間歇5～8分・発作20～30秒。内診所見は4cm/60%/-3/中/やや硬であった。CTGモニター所見はレベルⅠであり、入室後は夫に購入してもらったおにぎりとジュースを召し上がったり、入浴したり、散歩をして過ごした。16:30から助産学生Eさんは30分ほどカルテの情報を閲覧し、実習指導者Cさんは「産婦さんとご家族へ挨拶した後、今の産婦さんの様子がどうなのか、そのまま一緒に過ごしてみてね。初期計画は少し関わった後に報告してね。」と伝え、17:00に学生とともに恵比寿さんの部屋に訪室した。恵比寿さんは、「少しお部屋の中を歩いていました。ちょっときつくなってきた気がします。」と話し、間歇時には汗をタオルでぬぐい、水を飲んでいる。陣痛発作時はベッド柵を握って立ったまま痛みを逃しており、夫が腰（仙骨の周辺）をマッサージしていた。陣痛間歇4～5分、発作間30～50秒。FHR145bpm、発作前後でFHRの低下なし。実習指導者Cさんは学生Cを部屋に残してナースステーションに戻るが、学生Cさんも5分ほどするとナースステーションに戻ってきてカルテを閲覧している。17:10に恵比寿さんから「何かでました」とナースコールあり。実習指導者Cさんが学生Cさんと一緒に向かうと、パットいっぱいに淡血性の羊水の漏出あり。児心音を確認し、内診をすると、FHR140bpm、6cm/80%/-1/中/軟、胎胞はなく破水であった。部屋の外に出て、実習指導者Cさんが「今の状況をどう思った？」と聞くと、学生Cさんは「内診はよくわかりませんでした。頭には触れました。陣痛はモニターでは3～4分間隔で、恵比寿さんは辛そうなので、分娩進行していると思います。」と述べた。17:30現在、まだ初期計画については何も相談はなく、学生Cさんは再びカルテを閲覧してメモをとっている。 |

　　学生の行動目標

　「前回は分娩進行を理解した上で何をするべきか考えて行動できなかったので、今回は分娩進行を考えて行動したい。また、4要素について十分に考えられていなかったので、今回はちゃんと考えていきたい。前回は慌てると清潔不潔への認識が不十分となってしまったところもあるので、今回は慌てずに清潔を保ちたい。」

　課題

■助産学生Cの以下の状況も考慮して、17:30の場面における指導方針や具体策について検討してください。

■不足の情報はグループごとに適宜設定してください。

【助産学生Cさん】

・設定：看護大学を卒業後そのまま大学院助産課程へ進学した1年生 。看護師としての就労経験はない。

分娩介助受けもちとしては3例目。1例目は初産婦で分娩第Ⅱ期から受け持ち30分後に吸引分

娩となり、2例目は1Pの経産婦で3時間受け持った後に自然分娩を介助した。

・緊張が強いのか実習開始の挨拶のときから表情がやや硬い。こちらから尋ねると話すが、こちらから声

をかけないと何もしゃべらない。

・産婦さんと家族への挨拶と自己紹介は落ち着いて朗らかにできていた。